

明るい選挙の広報誌

私たちのたて場

2004

4.5

月合併号



特集◆

二〇歳になったら、
投票に行きます

No.273

財団法人 明るい選挙推進協会

平成16年5月10日発行 通巻753号

若者は政治をどう見ているのか？

— 香川大学法学部の新入生調査を材料として —

最近、若者の政治離れが進んでいるという議論をよく聞きます。二〇一一年七月の参院選における年代別の投票率を見ると、全体の投票率が約六〇%であったのに対し、二〇歳代では三〇〜四〇%に過ぎません。若い世代の政治参加の度合いが低く、年

齢を重ねるにつれてその度合いが高まっていくことは、以前から知られており、一概に悲観する必要はないでしょう。とはいえ、民主主義が国民の意思を基礎とした政治体制であることを考えれば、多くの若者が政治から距離を置いているような状態は

好ましいとはいえません。いずれにしてもこの問題を考える上では、若者の投票率の低さといった表面的な行動だけでなく、若者の政治に対する見方を幅広く理解することが重要なのではないのでしょうか。ここでは、二〇〇四年四月に香川大学法学部の新入生を対象として行われた調査（有効回答数一六〇）の結果を材料としながら、今日の若者が政治をどのように捉えているのかを考察していきます。

関心のある政策課題

まず、どのような政治的課題に関心を持っているのかを見てみましょう。表1にある一項目のうち重要と考える問題を複数回答で挙げてもらい、その後最も重要と考える問題を一つだけ挙げてもらいました（表1左列に重要と考える人の割合を、

右列に最も重要と考える人の割合を示しています。この結果を、すべての世代を対象とした同じような調査の結果と比較すると、全般的には似た傾向にあります。が、犯罪の防止や社会秩序の維持、国民の声が反映される政治の確立といった、より社会的な問題への言及の多さが目を引きます。調査の対象が法学部の学生ですから、身近な問題より社

表1 重要と思う政策課題

	重要	最も重要
景気回復と経済安定	80.0%	20.5%
国民の声が反映される政治	75.6	15.9
犯罪防止や社会秩序	79.4	13.9
福祉の充実	83.8	11.3
自然環境や住環境の保護	75.0	10.6
政治資金規正など政治改革	58.1	10.6
地域を住みやすくすること	68.1	7.3
教育問題（いじめ、学力低下等）	71.3	6.6
国際経済における日本の地位向上	34.4	2.6
女性の社会進出	57.5	0.7
経済の仕組みの改革	35.6	0.0

プロフィール つつみ・ひでのり

1991年筑波大学入学。95年に慶応大学大学院入学。99年香川大学法学部に採用され、今日に至る。2003年香川県明るい選挙推進協議会委員に就任。

会的な問題に関心があるという背景もあるでしょうが、少なくとも真摯に社会を見ている若者もいるということはいえるでしょう。ただ、その裏返しとして、身近な生活に関わる問題が政治へと繋がっているという実感が乏しい、つまり「政治問題は政治問題で、生活の問題は生活の問題」という意識を表しているのではないかと考えられます。

政治への信頼

次に学生たちが政治を肯定的に見ているのか、それとも否定的に捉えているのかを確認してみます。図1は、国や地方の政治、政治的な仕組みや組織について、どの程度信頼できるかを一〇点満点で尋ね、不信（〇）・三不点（一〜三）・中間（四〜六）・信頼（七〜一〇）の三段階にまとめたものです。これを見ると、国や地方の政治への全般的な信頼は低く、またさまざまな政治制度・組織については、政党、国会への信頼が特に低いことが分かります。近年の政治不信の高まりは若者に限った現象ではなく、全世代に渡るものではありますが、他の世代と比較して

も学生たちの政治への不信感は一際立って高くなっています。また、国の政治全般への信頼と政治制度・組織への信頼の関係をみると、政党や国会を信頼しない人ほど国の政治を信頼していないという明確な関連が見られました。政党や国会が民主政治において特に重要な役割を担っていることを考えると、若者たちの政治不信はかなり根本的なものといわざるをえません。もちろん学生たちのほとんどは自分の投票で代表者を選ぶという経験をしていませんから、投票を経験することで国政への不信感はある程度、緩和されていく

図1 政治全般、政治制度への信頼

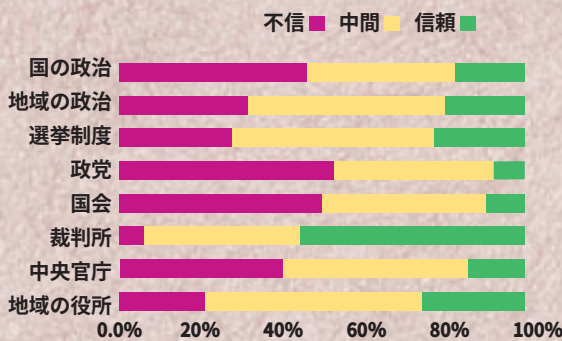
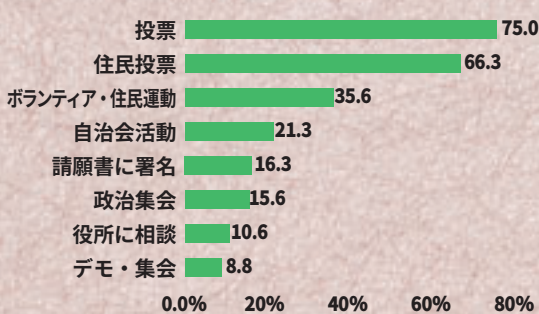


図2 今後やってみたい活動



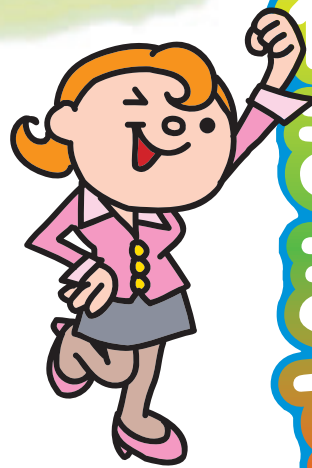
社会・政治活動への参加意欲

最後に学生たちが今後、どのような形で社会や政治に関わりたいと考えているのかを見ておきましょう。図2はさまざまな活動について、今後やってみたい活動として挙げた人の割合を示しています。ここから、投票や住民投票を挙げている人の割合

合が特に高く、これにボランティア・住民活動、自治会活動といった活動が続いていることが分かります。これらの活動は、自らの手で主体的に決定や活動に関与するものであり、自分の身の回りにある問題を解決するための活動であるといえるでしょう。学生たちは、自分たちの身近にあり、自分の意見や行動が反映されるような活動を通じてであれば、社会や政治に関わってみたいと考えているものと思われる。

これまで見てきたように、学生たちは政治課題を社会的なものとして捉え、政治への評価も新聞の政治欄に載るような側面から行っているようです。いい換えれば、政治は国民一人ひとりの身の回りにあることを決めているのだという実感が薄いのではないのでしょうか。最後に見たように、さまざまな意味で自分の手の届く範囲であれば、政治に関わりたという気持ちをもっているわけですから、政治がまさに身近な事柄に深く関わっているという認識が高まってくれば、政治への関与の度合も高まってくるように思われます。

二〇歳になったら、投票に行きます



小学生への取り組み

わくわく村の村長選挙
大野見村（高知県）

「わくわく広場」で模擬投票

去る二月四日（水）午後三時三〇分より小学一年生～三年生、一五名を対象に将来の有権者育成事業として模擬投票を行った。そもそも今回の模擬投票の発端は「わくわく広場」だった。「わくわく広場」とは、地域住民と交流しながら子供の世界を広げようと村教育委員会が三年生までを対象に五年前から実施している事業の一環。一五年度は放課後、休日

政治や選挙に関心をもつ次代の若者たちを育てるために、――。小学生や中学・高校生に対する選挙啓発の重要性がますます大きくなってきています。大野見村（高知県）の小学生たちの「わくわく村の村長選挙」や庵治町（香川県）の中学生たちの「選挙啓発学習」、そして秋田市の高校生たちの「街頭啓発活動への参加」など全国で展開されるこうした選挙啓発活動を通じて彼らが何を感じたか。「二〇歳になったら、投票に行きます。」という頼もしい声の輪を全国に大きく拡げていきたいものです。

の一言で担当はわくわく広場の時間をくれた。

「わくわく広場」で模擬投票をやることに決まったものの、実際小学一年生～三年生に投票を教えることが果たしてできるのか不安になった。村教育長にも、「かなり難しい」といわれてしまった。

村明推協は平成一五年に発足し、その年に初めて中学三年生を対象に模擬投票を一回実施しただけ。その組織に今回小学校低学年を対象に模擬投票をやれというのはかなり厳しいことだろうと感じた。だから具体的な案は事務局で作成し、明推協はサポート役ということになった。当初、案としてはビデオ上映、そし

て模擬投票、標語作成だった。小学校低学年ということもあるし、何より今までわくわく広場で実施してきたことは楽しみながら参加できたということ。今回に限り難しいことはできない。だからいくら選挙ということでも参加する生徒が楽しみながらできなくては興味湧かない、意味がない。それが重大な課題だった。

前もって明推協とも打ち合わせができないため、会長と委員の一名に連絡をとった。「どうしよう?」という投げかけに彼らは「紙芝居」にしようという提案してくれた。「絵は? 内容は?」ということになり、他の委員に相談すると「私が作る」と積極的

き初めて明推協の委員選任に間違いはなかったと確信したことだった。

紙芝居を作成するという結論になったものの、県選管に問い合わせるとビデオがあるとのことで、結局ビデオ上映となった。

やっと具体的な案ができ、ビデオ上映、標語作成、模擬投票、風船飛ばしと日程が決まった。

当日、一五名の参加者を前に、やはり厳しさを感じた。この子たちはどういうふうに参加の大切さを伝えよう。また投票参加をどういうふうに呼びかけよう。それが一番の課題だった。ビデオは「君が輝くとき」を選んだ。しかしアニメとはいえずやはり内容は難しく、ビデオを見た後、「投票参加を呼びかけるために標語を作成しよう」と言ってもすぐには伝わらなかった。それでも時間が



手を挙げて立候補する子どもたち

経つうちに五枚、六枚、短冊に投票の呼びかけを書いてくれた。

大切なのは、選挙を身近に感じることに

そしていよいよ模擬投票をやる時がきた。初めの計画では生徒に立候補させるのは無理だろうし、理解できないだろうから先生方に二人立候補してもらい、一人の名前を書いてもらおうと計画していた。しかし当日、事務局の独断で生徒に立候補させることに決めた。これはかなりの挑戦だと自分でも思いつつ、ひょっとして立候補が出なかったら困るから、もし出なかった時は先生方が立候補してねと相談していた。

「大野見村の村長さんは、『自分が大野見村の村長さんになったら、みんなが楽しく過ごせる村にしたい』と立候補して、みんなのお父さん、お母さんが投票して選ばれました。今日はわくわく村の村長さんをみんなで決めたいと思います。わくわく村の村長さんに立候補したい人」というと、びっくりしたことに六人の生徒が手を挙げた。

「じゃあ、前に出て一人ずつ村長さんになったらどんなことをしたいか発表してください」というと、「たくさ

ん木を植えてわくわくの森を作りたい」とか「ツリーハウスを作りたい」とかみんなはつきりとした口調で思いのことを発表した。これにはびっくりした。低学年ということに少しとまどっていた自分を反省した。みんなにはつきりすぐに自分の主張を述べるができるのかと感心した。

投票は実際に記載台、投票箱を準備した。記載台にも氏名掲示を張った。投票用紙も県選管の協力で実際のものを使用した。順番に記載台で記入し、投票箱へ投函。投函した後投票用紙が開くということも特別に公開した。みんな投票が終わり開票する。開票時には自分の選んだ立候補者が当選するのかどうか、どきどきしているという様子までこちらに伝わった。

開票の結果三年生の女の子が当選した。「わくわく村の村長さんに選ばれたのでみんながわくわくするような村を作りたいです」とあいさつまでしてくれた。

後は最初に書いた投票への呼びかけを風船につけ、「みんなで投票に行こう」と大声で叫び空へ飛ばした。

次の日、小学校の先生から一枚の日記が選管へ届けられた。立候補して当選した女の子の日記だった。それには立候補したこと、発表したこ

と、当選したことが簡単に書かれていたが、最後に「大きくなったら本当にわくわく村を作ってみよう」と書かれていた。

低学年を対象に投票体験、政治への参加を具体的に教えることは難しいことだけれども、投票に慣れ親しむということ、選挙を身近に感じてもらうことはできるかもしれない。今回の事業で感じた。来年度も引き続きこの事業は続けていきたいと教育委員会に話している。

しかし今度はビデオ上映は内容が難しすぎるのではないつもりだ。時間をかけて明推協と紙芝居を作成したいと考えている。

それが子供たちにとっても、明推協にとっても大いに役立つことだと思っているからだ。

(記 中内ともみ 大野見村選管書記)



みんなで開票 どきどきわくわく！

中学生に対する啓発

選挙啓発学習 庵治町（香川県）

香川県では、平成二二年度（二〇〇〇年度）から「小中学生に対する啓発事業」を行っている。この事業では、若い世代の選挙離れがいわれる中で、将来の有権者である児童・生徒の選挙や政治意識を高めることをめざしている。

庵治（あじ）町立庵治中学校で行われた選挙啓発の授業をご紹介します。

二〇〇〇年から県内市町で 取り組みを始めて

庵治中学校で選挙啓発事業が行われた二月一七日。最初に県庁で、香川県選挙管理委員会書記次長の石垣博子さん、書記の川田卓也さんと大野貴弘さんに、庵治中学校で選挙の啓発事業が行われるまでの流れをうかがった。

「小中学生に対する啓発事業」は、二〇〇〇年に仁尾町立仁尾中学校、〇一年に飯山（はんざん）町立飯山中学校、〇二年に内海（うちの）み

町立苗羽（のうま）小学校と綾歌（あやうた）町立綾歌中学校、〇三年に香南町立香南中学校と丸亀市立丸亀東中学校で実施された。このうち、丸亀市は県から資料提供を受け、市単独で実施した。仁尾中学校が第一号となったのは、町教育長が県明推協の委員で、明るい選挙推進活動を活発に行っていたという背景があった。

この啓発事業は、年度初めに各市町（県内に村はない）から提出される明るい選挙啓発事業計画の中に、小中学校の啓発事業について「希望する」「検討中」などを記入する欄があり、「希望あり」と答えた市町に連絡をとることから始まる。

「理解のある市町を探して、学校を説得していただいています。忙しい業務の中ですから、どれだけ事務負担があるのかと、抵抗感がないわけではありません。そこは、『県が資料を用意して、協力します』と説明します」

市町の心配を少なくするために、

お互いの役割分担を決めた表を作成している。

「市町が準備するのは、投票箱や記載台などの通常の選挙と同じものですから、それほどの負担はないと思います。資料の作成が大変だと思われることがいちゃんのネックですから、こんな資料でやりますと具体的に提示します」

今回の準備一覧表によると、県選管は、啓発はついで、選挙の知識の冊子、全生徒用と役割を受け持つ生徒用の資料、模擬投票用の投票用紙と開票結果用紙、クイズの景品、めいすいくんの着ぐるみなど、庵治町選管は、投票箱一個、一〇人程度の記載台、氏名掲示、投票管理者・投票立会人・事務従事者表示、写真撮影あおおにくん（香川県のマスコット）の着ぐるみなど、庵治中学校は、投票管理者・投票立会人などの生徒を事前に決定し、名前を町選管に連絡すること、当日は生徒用筆記用具、ホワイトボードなどの準備——となっている。

「ただ、やりましようかというだけでは、市町はのつてこないと思います。資料をそろえて、こんな形でしますからとうまくアプローチをしていくことが必要です」

児童生徒に配る資料、当日話す内

容は、過去六回の実施のたびに見直しをしながら、改善を重ね、これまでに実施したものの集大成を提供できるようにしている。小中学校から提供される時間に合わせて、選挙についての話だけ、模擬投票も行うなど、いろいろなパターンがあり、いままです一番短かったのは二〇分だった。きちんとした資料があり、しかも選挙についての講義や進行は県が協力することがわかると、市町は安心するそう。

庵治中学校で「啓発」が実 施されるまで

今年はどこで実施するかを考えたとき、候補に上がったのが庵治町だった。

「庵治町は他町の事例を見て、関心はあるとのことでしたので、県が全面的に支援していきますので、一緒にやってみませんかと呼びかけました」

県選管から町選管に正式に申し込みをしたのは、昨年一二月。町選管から小中学校を管轄する町教育委員会に相談すると、「話を聞きたい」ということになり、県選挙管理委員会と庵治中学校の先生を交えた四者で会合をもった。

「そこで、それまで実施した資料を見



めいすいくんの立候補演説

ていただき、日程などをご相談しました。学校から一年生を対象にという話がありましたから、めいすいくんの着ぐるみを登場させたらどうかとご相談しました。中学生と小学生ではめいすいくんが登場したときの反応が違い、小学生だと雰囲気がつつと盛り上がります。中学一年生は小学六年生の反応とだいたい同じだと教えていただきました

その後は、電話で打ち合わせをして、実施の前日、町選管が会場設営を行い、県選管が投票立会人などに携わる生徒に事前のレクチャーを行った。

「町選管の準備は、実際の選挙事務

で熟知していることです。そんなに大変ではないと思います。中学校の先生からは生徒に事前に説明をしたいというお話があり、県の選挙啓発資料をお送りしました」

子ども模擬議会を経験後、選挙を勉強

昼過ぎに、庵治中学校へ向かう。

「今回は、社会科の公民の時間を二時間いただきました。選挙講義、選挙クイズ、模擬投票と、理想的なパターンでできると思います」と進行を務める大野さん。庵治町は人口約六七〇〇人。花崗岩の「庵治石」で有名な石材のまちで、採石場と加工場が見える。瀬戸内海に面した漁業のまちでもある。庵治中学校の井上浩校長は地元民間企業のトップを務めた後、昨年四月に就任した。

「選挙は、社会人として大事なことです。生徒に選挙について教えていただくことに抵抗はありませんでした」

庵治町では、七年前から町議会の議場で「子ども模擬議会」が開かれている。毎年一月に中学一年生が子ども議員になり、質問を行い、町長をはじめ、各政策の担当者が答弁する。今年も一月二八日に開催された



難しかった選挙クイズ

が、その子ども議会を経験した一年生たちが選挙の「授業」を受けるのだ。

「最後に『庵治町は合併するのです。合併するなら、いい点と悪い点を教えてください』という質問が出ていました。町長が『あなたたちが一番影響を受けるのだから、お父さんお母さんによく意見を聞いておきなさい』とまとめていました」

子ども議会は、七年前に町教育長に就任した植田宗士さんが提案した。植田さんは香川県明るい選挙推進協会の委員も務めている。

「中学校の公民の学習の一環になればいい」ということで、子どもの目から見た庵

治町への意見を聞きたかったこと、また、町職員に子どもにわかるような答弁をしてほしいということがありました。子どもたちから出た意見は、町でも前向きに取り組んできました」

植田さんは、幼・小と小・中の連携、小児成人病の予防、幼稚園の園庭の放課後開放など次々と改革を行い、昨年四月には民間人を校長に登用した。

「県から町の総務企画課に啓発の話がきたとき、子ども議会を経験しているし、議員に選ばれる方の選挙を勉強するのはいいことだと思いました。明日は、高松市にある県民ホールで合唱の発表会を行います。子どもたちに本物を経験させることは大切です。忙しい時期なので中学校に少し無理をいったかと思いましたが、校長先生が快く引き受けてくれたのはありがたかったですね」

選挙クイズ・選挙の講義・立候補演説・模擬投票

午後一時三〇分、二階の食堂で一年生ニクラスの五時間目・六時間目の授業が始まった。校長先生のあいさつに続いて、大野さんの説明で「選挙クイズ」を実施する。質問は一二三。クイズを解く時間は一〇分間。

選挙クイズ

まず始めに、腕試しとして、次の問題を考えてみて下さい。あまり深く考えずに、リラックスして解いてみましょう（一部掲載）。

問題8【開票】

テレビ等の開票速報の中で、開票作業の終了前に「当選確実」という報道がされていますが、この「当選確実」は誰が決定するのでしょうか？

- ① 選挙管理委員会
- ② 各報道機関
- ③ 民間の選挙専門調査機関

五、六名ずつがグループになって相談しながら、三択の中から正解を探していく。答え合わせをすると、中学一年生にはかなり難しかったようだ（クイズは別掲）。

続いて、川田さんの「選挙についての講義」。選挙管理委員会の仕事、選挙権と被選挙権の移り変わり、選挙の種類、年齢別投票率……をかみくだいて説明して、「選挙で私たちが選んだ代表者が政治が行われます。選挙は大事な権利ですから、棄権することのないよう、みなさんの未来を一票に託してください」と締めくくった。

休憩時間をはさんで、いよいよ模

擬投票の開始だ。立候補者は「めいすいくん」「おおおにくん」と「おおのくん」。着ぐるみの登場に、生徒たちから歓声上がる。

三人の立候補者の演説。めいすいくんは、「安全で平和な日本にして、毎日笑顔で過ごせるようにしたい。さめきうどんをもっとPRして、香川県に多くの人がきてもらえるようにしたい。体育館や教室をよくして、庵治中学校が楽しいと思えるようにしたい」

おおおにくんは「先生と生徒の間に立つて、庵治中をよくしていきたい。修学旅行は海外にしたい」

おおのくんは一言「庵治中学校をよくしていきますから、よろしくお願ひします」

演説が終わると、投票管理者、投票立会人、投票事務従事者に決まっている生徒が所定の席に着く。大野さんがここで投票管理者、投票立会人、投票事務従事者の役割と、開票管理者などについて紹介する。「では、どの人が代表にふさわしいか、投票をしてください」

実際の選挙と同じように、投票管理者の「……投票を開始します……」という宣言から投票が始まった。生徒たちは入場券を名簿係に渡し、確認を受けた後、投票用紙を受け取り、

記載台で意中の候補者の名前を記し、投票箱に一票を入れる。全員が投票をし終えると投票終了。次に開票へ「読めない名前、間違った名前は無効です」

開票の結果、めいすいくん二八票、おおおにくん二一票、おおのくん一票、無効一票で、めいすいくんが当選した。大野さんが、一票を投じた理由を質問する。

「演説のとき、めいすいくんがはっきり自分の意見をいって、庵治中をいちばんよくしてくれると思ったからです」

「おおおにくんは、先生と生徒の間に立つて交渉してくれるところがいいと思いました」

「自分のやりたいことがはっきりしていたと思ったので、めいすいくんを選びました。当選したのでよかったです」

「修学旅行で海外へ行けるのが魅力で、おおおにくんに入れました」

大野さんがまとめの言葉

「おおのくんのような優柔不断な演説はダメですね。候補者の意見をちゃんと聞いて、ほんとうにこの人に任せていいか、自分でしっかり判断して大切な一票を入れてください。今は二〇歳になると誰でも選挙ができますが、かつては限られた人たちが

しか選挙ができなかったことを忘れないでください。自分たちの代表を選ぶ選挙には必ず行くようにしてください。家に帰って、選挙が大事だということを話してみてください。そして二〇歳になったとき、今日のことをぜひ思い出してください」

会場では、香川県明るい選挙推進協議会会長の坂口良昭さんと、庵治町明るい選挙推進協議会のみなさんも「授業」の様子を見守った。庵治町では、新成人への啓発として、二〇歳を迎えた誕生日にバースディカードと選挙の資料などを、町推協委員が各家庭を訪ねて配っている。

「投票を経験したら、選挙への関心は出ると思いますね」

一回も棄権はしたことがないという社会科の前田先生が、「あと七年で二〇歳。選挙権を得たときに、しっかり投票をしてください」と締めくくった。

二時間の「選挙啓発学習」を終えて

生徒たちに、「授業」の感想を聞いた。

「選挙クイズはむずかしかった。数え切れないくらい間違えました」「思ったよりはできましたが、ちょ



開票

つとむずかしかったです。九問当たりました」
 「自分が投票した一票で、当選が決まるのがわかりました」
 「今日のことを思い出したら、みんな選挙に行くと思います」
 「二〇歳になったら、選挙には欠かさずに行こうと思いました」
 「講義は初めて聞くことばかりでしたが、七年後の二〇歳になったときにためになることなので、いい体験だったと思います。選挙に行く人が少ないそうですが、私は二〇歳になったらずっと参加しようと思いました」

「選挙は先のことだと思っていて、堅苦しいイメージがあったけれど、今回の体験でとても身近に感じることができました」

担当の前田先生の感想

「選挙の知識も教えていただきましたし、投票するという体験をしたことは心に残るのではないかと思います。二〇歳になったとき、全員の子が投票に行っていほしいと思います」

教頭の佐藤敦雄先生も、社会科を担当している。

「子ども議会では、議員になって質問をして、今回は選挙を体験してと、

セットで学習できました。将来

庵治町を担う議員が出るかもしれない……ぜひそうなってほしいですね。学校行事がたくさんあるのですが、庵治中では生徒会が活躍する場が多いんです。入学式、卒業式も生徒が進行します」

町選管の寒川節子さんの感想

「中学生に選挙啓発をしたいという考えはあっても、行事が増えるのは大変だなという思いがありました。準備は大変ではなかったですね。中学生が予想以上にきちんと受け止めてくれましたので、できれば子ども議

会と合わせてやれたら、もっと関心をもってもらえるのではないかと思います」

県選管の担当者 大野さんの感想

「今までの学校啓発の中で、時間も十分いただきましたし、一番充実した内容だったのではないかと思います」

小中学校への啓発は、これまでも実施のたびごとに地元の新聞やテレビに取り上げられてきたが、庵治中学校にもNHKをはじめ、新聞各社から取材にきた。

マスコミに報道される効果を十二分に計算して、記事にしやすいような「記者発表資料」を提供。前回までの実施状況とともに、めいすいくんの着ぐるみが登場することをアピールした。

「月曜日は記事が多いので、できるだけ火曜日に事業をもつてくるとか、ニュースの端境期をねらうとかの工夫をしています。記者の方が取材しやすいような資料をうまく提供することも大切だと思います」

この事業の経費はほとんどかからない。対象人数が多いときは、選挙クイズの成績上位者に賞品を出したり、対象人数が少ないときは全員に記念品を出したりしているが、今回は、用紙の印刷代、選管職員の旅費のほかに、記念に配ったエコペンセ

ットの費用数万円だけだった。

二度目の県選管勤務という石垣さんの感想

「市町が率先して啓発に取り組んでいただきたので、市町主導で事業をしていただくと、その中に県が参加させていただければと思います。やり方がわからないという不安が市町にはあると思いますが、県が必ずサポートすることを各委員会、研修会を通じて周知していけば、不安感も減っていくのではないかと思います」

庵治町は、瀬戸内海国立公園にある風景の美しい、こじんまりとした町。町に音楽ホールはない。本物の選挙を体験した翌日、「子どもたちに本物のステージを経験させたい」と、庵治中学校では高松市にある県民小ホールで合唱会を開くことになっていった。「大イベントなので、必死に練習していますよ」とのお話どおり、放課後の教室からは一〇人ぐらいずつのグループの練習の歌声が流れてきた。

香川県観光協会の宣伝コピーに、白本一小さい「香川県」には、日本一うまい「さぬきうどん」がある」とあったが、きらっと光る試みと中学校に出会い、こちらが励まされた思いがした。

(記 清原れい子)

高校生が街頭啓発活動に参加

三〇〇〇個の手書きメッセージに
投票率向上の願いをこめて(秋田市)

秋田市では、先の統一地方選挙と衆議院選挙で、高校生が街頭啓発を行った。ウエットティッシュ三〇〇〇個に、自分たちで考えた手書きのメッセージを添え、道行く人たちに投票参加を呼びかけた。今回の統一地方選挙では参加者全員が有権者。「いい経験だった」という秋田商業高校のみなさんは「投票に行きます」と声をそろえる。

高校生が、選挙啓発を通じて何を感じたのか。街頭啓発が実現するまでを紹介する。

秋田市選挙管理委員会事務局での

ある日の会話

「高校生が街頭啓発でティッシュを

配ったらアピールするだろうな……」「女子高のボランティアサークルに頼んでみようか……」

会話は、主査の斉藤透さんと主事の奈良毅さん。

「高校生が参加したら、マスコミもきつと取り上げてくれる」「高校に働きかけてみよう」

二人の意見が一致した。市立高校のほうの話を進めやすい……と考え、と、「橋渡し役」に最適な方が事務局内にいた。参事の加藤肇さんは、今春の選抜高校野球大会に出場した秋田市立秋田商業高校OB。しかも、かつて野球部の選手、監督として甲子園の舞台に立ったという輝かしい経歴の持ち主だ。商業高校は卒業後、社会に出ていく生徒のほうが多いというのも好条件だった。

二〇〇三年の統一地方選挙が近づいた二月半ば、加藤さんと斉藤さん



生徒会の皆さん

は秋田商業高校へ出かけ、「街頭啓発に協力してほしい」と主旨を説明した。

「教頭先生からは、授業の一環として会社で職業体験をしたり、生徒会主催でイベントを開いているので、その延長で大いにやりましょうという力強いお言葉をいただきました」

快く協力が得られ、生徒会顧問の先生と打ち合わせをして、大人になるための社会勉強の一つとして実施することが決まった。そのときは、「高校生に啓発物品を配ってもらえたら……」との思いを描いていた。

生徒会との話し合い

統一地方選挙まで時間は少ない。三月初め、斉藤さんと奈良さんは生徒会役員の生徒と対面した。スポーツ関係の部活をする男子生徒が多いこともあり、生徒会役員は女子生徒がほとんど。その日は一〇人ほどが集まった。ちなみに、在校生の男女比は六対四で、女子が多い。

「最初は、生徒会のみなさんもどんな話をされるのだろうと緊張していたようでした。反応は今いちで、顔を見合わせるシーンが多かったですね。選挙啓発のイメージがわからなかったみたいです」

お互いが緊張。「なぜ、投票率が低いのだろうか？」と問いかけたが、高校生にはふだん考えたこともない質問だった。

「政治と選挙、投票率が結びつかないようでした」

せつかくの機会なのに、これではまずい。高校時代生徒会長だった奈良さんが経験談を話し、話題を消費税に転換した。

「いま5%の消費税が一〇%、二〇%になったらどうする？ それを決めるのは政治で、その政治家を選ぶのは選挙だ」という話をしました。

商業高校ですし、消費税に関心はありましたね」

「そこで、選挙の投票率が低いので、投票率を上げるために手を貸してくれないかという話をして、人が集まるところで、何かをするということころまで決まりました」

最初の話し合いのとき、高校生たちは「なぜ、うちの学校？」と思ったそう。

政治や選挙について家庭で話していた人、知り合いに市議選に立候補した人がいるので、「縁遠い」とは感じないという人もいたが、大半の人には「選挙」という言葉は身近ではなかった。選挙の啓発活動に「興味がある。楽しそう」と思った人も一人。「何をやればいいの?」「課題が漠然としていて、どうしたらいいかか思い浮かばない」「自分に何ができるかわからない」「どうやって、まわりの人たちに伝えたらいいの?」と、戸惑いがいっぱいでのスタートだった。

準備は、高校生が自主的に

続いて二回目。その日は、高校生の出席人数がずっと増えていた。選挙管理委員会で用意できるもの—め

いすいくんの着ぐるみ、はつぴ、ウエットティッシュやティッシュなどの啓発物品、これらを活用して何かできないかと提案した。

そこで、ウエットティッシュを配るなら、自分たちでメッセージをつけたいという意見が出た。「それなら、手書きがいい」「手書きのほうがいい、もらったほうはうれしいね」ちょうどホワイトデーのころ。年賀状もバレンタインデーも、手書きのほうが心のこもっている感じがする……。全員が賛成して、三〇〇〇個のウエットティッシュに、自分たちで考えた手書きの啓発標語をつけることが決まった。

「二回目にめいすいくんの携帯ストラップを渡したら、『これ見たことがある』という話が出たんです。ちょうど選挙啓発のテレビコマーシャルが流れていましたが、一回目の話し合いがなかったら、おそらく印象に残らないで通り過ぎていたでしょう。明らかに意識が変わったと思いました」

「三〇〇〇個に張ると考えただけで、我々は尻込みしてしまいましたが、『これくらいやります』とサラッといわれて、内心すこいなと思いました」

春休みが終わるころ、一人で考えたり数人で相談したりして、それぞ

れの気持ちをこめた一〇の標語が完成。五つずつ二列にレイアウトしたA4判の紙一枚が選挙管理委員会事務局に届いた。

「事務局でピンクや黄色の紙三〇〇枚にコピーしましたが、市議選の前に県議選があり、気にしつつも、高校生を信用してお任せしていました」

四月に入ると、標語をコピーした紙と三〇〇〇個のティッシュ、両面テープなどの「材料」が生徒会室に到着した。

「生徒会室がウエットティッシュの山で、すごかった」「これだけ渡すのだと思うと、重みを感じました」

作業は高校生が自主的に進めていった。A4判の紙を一〇等分にカットする係、両面テープをカットする係とはがす係、ウエットティッシュに貼る係、箱に詰める係……と、みんな協力して、一週間かからずにできた。

「ちょうど新年度で、生徒会行事がたくさんあるときだったので、行事のことを決めながら手を動かしました」「思ったより早くできました」

「流れ作業で、いつの間にか終わっていた感じでした。楽しかったです」

できあがりには、選挙管理委員会事務局の人たちが感心するほど、紙の

カットも貼り方もきれいだった。「几帳面な人がいるんですよ」

高校生を主体に、街頭啓発

四月一九日土曜日の午後。四月にしては寒い、雨模様の日。高校生一五、六人に市明るい選挙推進協議会のメンバーを加え、総勢約四〇人が参加して、秋田駅東西連絡通路の「ポポロード」で、市議選に向けての街頭啓発が始まった。

自分たちで考えた標語は、『自分たちのために投票を・あなたのために



手書きメッセージのウェットティッシュ

大切な一票です』『あなたの一票は未来への一歩』『選挙に行っても変わらない！？でも選挙に行かなきゃ変えられない！』など。

「めいすいくん」の着ぐるみには、入りたいという希望者が続出していたが、当日、現物を見て大変なことがわかり、辞退者が続出。会長の伊藤歩美さんと副会長の判田豪さんが担当した。最後まで入り続けた伊藤さんは、県内最長記録をつくったとか。「長く入っているのに動きがブシなくて、最高のめいすいくんでした」「動くのが大変なのに、子ども一人ひとりに応じて、さすがだと思いました」

伊藤さんの感想。「中に入るのも出るのも大変。入っている間も暑くて、視界が狭いので、どれだけかわいらしく演じられるかにかけました」

その日の様子を報じたテレビを見た親から、「着ぐるみの中で、会長の顔が見えないなんて」といわれたとか。

「暑いし、重いし、汗をかいてもふけないし、疲れました。大変だったけれど、子どもが寄ってきて、楽しかった」と、もう一人の経験者の判田さん。

ウエットティッシュを渡した人たち

は、知らない人に話しかけるといふ

だんは体験しないことに挑戦した

「一生懸命に声を出して渡している

と、『がんばってね。投票にいきま

す』という人がいて、活動してよか

ったと思いました」

「ちゃんと伝わっているのか心配し

ながら、配りました。知らない人に

話しかけることはないの、いい体

験になりました」

「私が配った場所はあまり人通りが

多くなかったのですが、呼びかけは

しやすかったです」

「ウエットティッシュを受け取って

もらえなかったときは、気持ちが伝

わらなかったのかとショックでし

た。相手の人の反応から自分もい

ろんなことを得たと思います」

駅前で宣伝のティッシュを配って

いる人たちの気持ちがわかり、受け

取るようになったという感想も。

「受け取ってもらって、選挙につい

て理解してもらうには、笑顔で大き

い声で内容を説明しながら話しかけ

なければならぬので、むずかしか

ったです。がんばってくださいとい

われるとだんだん楽しくなり、時間

があつという間に過ぎたくらい熱中

しました。反応はよかったです」

「いかにウエットティッシュを受け

取ってもらって、投票所に行っても



ポポロードでの街頭啓発

らうかは、最後は真剣勝負でした」

「投票率が上がればいいなという思

いで団結できて、よかったと思いま

す」

明るい選挙推進協議会の人たち

も、一緒に啓発をした。

『がんばりましょう』と励まされて、

終わってから『今日はありがとう』

ございました』とお礼をいわれました」

『投票に興味をもってね』と声を

かけてくれました」

三〇分ほどで、三〇〇〇個のウエ

ットティッシュは配り終えた。

ウエットティッシュの取り出し口

に印刷された「一〇〇%への挑戦」

のコピーもいい。矢印が秋田市の投

票率を表し、六〇%台から右肩上

りで一〇〇%をめざしている。

活動を通じて学んだもの

取材の日、放課後集まってくれたのは、選挙啓発にかかわった当時の生徒会メンバーの中から、生徒会長の伊藤歩美さん、副会長の判田豪さん、田中稚歩さん、書記の嶋田里子さん、会計の見上寛子さん、会計補佐の高島絵里子さん、米塚沙織さん、執行部の一員、加藤泰明さん。「街頭啓発の経験を通して、政治・選挙への関心が変わった人？」の問いに全員の手があがった。みなさんから一言ずつ。

「自分たちのためになって、やってよかったと思います。選挙があると、ニュースを見たり、興味をもつようになりました」判田

「選挙が自分たちの生活とかかわっていることがわかって、重大さに改めて気づきました。選挙公約は今までは興味がなかったのですが、見るようにもなりました」米塚

「啓発の標語を書いていくうちに、選挙が自分たちに与える影響が大きくて、自分たちに返ってくると感じました」高島

「二〇歳になったとき、あやふやだった投票したくはありません。立候補者がいっていることが信用でき



バスケット部員も活躍

たら、投票に行きたいです」見上

「新聞の立候補者の考え方や紹介の記事を読むようになりました。新聞やニュースを見るようになって、自分の中に興味が出てきたのだと思います」嶋田

「衆議院選や県議選、市議選の投票率が気になって、選挙速報を見ました。新聞の候補者の紹介などをチェックして、選挙に対する関心が高まった感じがします。街頭啓発をしていたときは、投票率が八〇%は行くと感じたのですが、速報を見てショックでした。でも、ぼくたちが二〇歳になったら、もっと投票に行くって思いました」加藤

統一地方選挙は、ちょうど進学が就職かの選択期にあたっていたため、関心があり、記念にもあった

いすいくんのストラップを囲んで、話も出たそう。衆議院選挙の秋田

一・二区は候補者が若かったため、「かつこいい」とクラスで話題にもなったとか。

「ほかの高校と比べると、社会のことも知っておかないといけないので、社会的関心が高い人が多いと思います」

「就職する人が多いので、世の中のことも知っておかないといけないので、社会的関心が高い人が多いと思います」

加藤さんは政党の「マニフェスト」も読んだ。

「日本を変えていくのは自分たちなのだ、自分の意思を国政に伝えるという意識をもったほうがいいと思いました。絶対、投票に行きます」

全員が拍手。

「活動をする前は、まだ二〇歳でないので選挙は関係ないという意識が大きかったのですが、自分の将来にかかわる大事なことなのだと思うので、新聞やテレビのニュースを見る機会が増えました。いい経験だったと思います」田中

顧問として、生徒会活動を見守っている三浦龍先生、佐川宏先生は、「いろいろな活動を通して成長している」と感じている。

会長の伊藤さんから後輩たちへ。

「考える機会も増えるし、いい経験になると思いますので、ぜひやってほしいですね。自分たちで標語を考えたり、流れ作業をしたり、いろいろなことが学べたと思います」

啓発担当者の感想

高校生の街頭啓発を働きかけた選挙管理委員会事務局の感想。

「やった！ですね。街頭啓発では、配っている方も楽しんでいるし、もらう方もこやかに受け取っていました。こんなにうまくいくとは思いませんでした」

「初めは戸惑いもあったようですが、二回三回と話し合いを重ねていって、自分たちの意向で進められて、社会のために役に立ったという思いが当初思っていたより大きかったのではないかとこの話を先生からいただきました」

「こちらできつかけはつくりましたが、手書きのメッセージをつけるというアイデアを実行したのも、配ったのも高校生です。自らやっていただいたのはありがたかったですね。高校生たちは次回の統一地方選では有権者になります。近未来の有

権者の啓発とうたいましたが、予想以上にがんばってくれました」

「会長を頂点にチームワークがよかったですね。組織がしっかりしている生徒会だと感じました。他校の高校生も、同じ高校生が啓発をしているのを見て、何か感じてくれたと思います」

「高校生が主役でしたが、明推協の委員もほとんどの方がきてくださって、めんどろをみてくれました。『こっぴどい形のほうがいい、次回もこれで行こう』とおっしゃってくれたのも、喜びでした」

昨年一月の衆議院選挙では、女子バスケットボール部の選手たちが街頭啓発に立った。

「マスコミで取り上げられて実績ができましたので、これからは、ほかの高校へも広げていければと考えています。次回の標語は、『一票良断』でいきたいですね」

街頭啓発を経験して、政治・選挙は自分たちと関係があると感じつつた高校生みなさん。「二〇歳になったら、投票に行きます」と、心強い。今回の試みは大成。ちょうど取材中に、秋田商業は二四年ぶりに春の選抜高校野球大会出場が決まり、準々決勝まで進出と大活躍した。

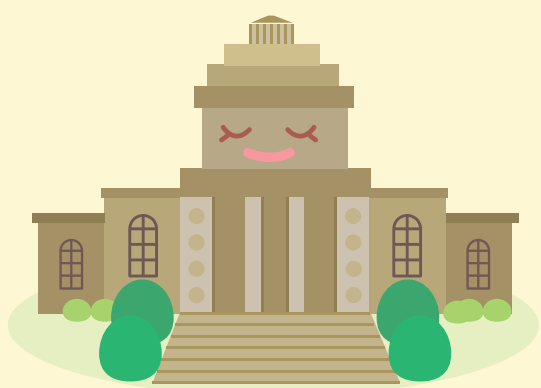
(記 清原れい子)



「参議院選挙」

今年は参議院選挙の年

任期満了による参議院選挙が、平成一六年七月に予定されています。前回の選挙が平成一三年七月二十九日に行われたので、今年は三年ごとの半数改選に当たる年になります。



参議院選挙の成り立ち

参議院は、戦前の貴族院に代わって新たに設けられたもので、日本国憲法の規定に基づき昭和二二年に参議院議員選挙法が制定されました。そして同年四月には第一回の選挙が行われました。

昭和二五年に現行の公職選挙法が制定され、参議院議員選挙法も同法に統合されました。

参議院選挙制度は、全国区と地方区の二つの選挙を行う制度でしたが、その後昭和五七年に全国区の制度に代えて、拘束名簿式比例代表制が採用され、さらに平成一二年には非拘束名簿式比例代表制に改正される等、制度の変更が行われて現在に至っています。

また定数も平成一二年の改正により、現在二四二人となりました。

選挙の話 Q & A

補欠選挙と再選挙とは、どのように違いますか。

補欠選挙

当選人が参議院議員の身分を取得したあとで死亡や退職などで欠け、繰上げ補充をしても、なお定数に不足がある場合には、補欠選挙が行われます。

①選挙区選挙

選挙区で定員の四分の一を超える欠員が生じると補欠選挙が行われます。

この場合、通常選挙における選挙区の定数が半数改選制のため、定数八人区である東京都選挙区を除くすべての選挙区では一人でも欠員が生じれば補欠選挙が行われることになります。

国会は、衆議院と参議院の二つの議院から構成されている二院制を採用しています。二院制は多くの国で採用していますが、その理由と形態は国により異なり、また時代によっても変わります。

日本の場合は、衆議院も参議院もともに公選の議員により組織されていますが、権能や選挙方法が違つようになっています。

参議院は、衆議院とは違つた立場や角度からさらに法案等について検討を加えることによって審議を慎重にするところにあるといわれています。そのため議員の任期、被選挙資格、選挙区などが衆議院とは異なっており、特に参議院においては解散もなく、任期も長くなっています。

参議院選挙制度の概要

● 通常選挙

選挙区選出議員と比例代表選出議員の任期満了により行われる選挙のことを通常選挙といえます。

選挙区選出議員は、各都道府県の区域を単位とし、参議院議員の半数改選制度との関係で選挙区別定数がすべて偶数となっています。定数が二人である選挙区は、選出すべき定数は一人であり、小選挙区です。

比例代表選出議員は、全国を一つの単位として選出しますが、政党等の得票数に比例して議席を配分し、当選者を決定します。

① **任期** 六年。ただし、三年ごとに半数を改選します。なお、衆議院と異なり、解散はありません。

② **定数** 総定数は二四二人ですが、その構成は選挙区選出一四六人、比例代表選出九六人となっています。

選挙区ごとの定数は、青森県ほか二六県が二、北海道ほか一四県が四、埼玉県ほか三府県が六、東京都が八となっています。各選挙区では定数の半数が改選となります。

なお、公職選挙法の改正により、岡山、熊本、鹿児島の一選挙区で定数が四から二となりました。

③ **被選挙権** 日本国民であること及び年齢が満三〇歳以上であることが必要です。

④ **投票方法** 選挙区選挙は候補者に投票します。

比例代表選挙は、各政党が届け出た候補者名簿から、候補者名を記載して投票しますが、候補者名に代えて政党名を記載することもできます。これは、非拘束名簿式比例代表制が導入されたことにより可能になったもので、前回の参議院選挙から適用されています。

⑤ **当選決定** 選挙区選挙は、定員に応じて、得票数の多い順に当選者を決定します。

比例代表選挙は、各政党の総得票数に基づいて、まず各政党ごとの当選人の数が決まります。この場合の総得票数は、候補者個人の得票数と政党名を合算したものとします。

各政党の当選人の数が決定すると、得票数の最も多い候補者から順に、当選人の数までの順位のもの当選人となります。

⑥ **選挙期日** 選挙の行われる日を選挙期日といえます。一般的には投票日といわれていますが、選挙期日は、議会や国政に空白をつくらないよう、一定の期間内に設定することが法律で決められています。

参議院選挙は、任期満了日前三〇日以内に選挙を行うものとされています。ただし、例外として任期満了日前五三日以内の日に国会の会期がかかる場合は、その閉会の日から二四日以後三〇日以内に選挙を行うものとされています。

選挙期日が決まれば公示することになりますが、参議院選挙の場合は、少なくとも期日の一七日前までに公示しなければなりません。

② **比例代表選挙** 通常選挙における定数の四分の一を超える欠員（一人以上）が生じた場合に補欠選挙が行われることは選挙区選挙と同じです。

ただ、補欠選挙は、直ちに行われるのではなく、繰上げ補充に該当する場合は、まず、繰上げ補充を行うことになり、これを行ってもなお欠員が補充できないときに、その欠員の数が一人以上あれば行われることになります。したがって、比例代表選出では、名簿に従って補充できるのであれば実施しません。

実際にも前回通常選挙期日以降、一六年三月末時点で九人の欠員が生じましたが、いずれも選挙会で繰上げ補充による当選人を決定しています。

③ **任期** 前任者の在任期間となります。

再選挙

選挙が行われても、必要な数だけの当選人が得られない場合や、選挙後の死亡、失権等により、当選の更正や繰上げ補充によっても所要の当選人が得られない場合に行う選挙のことをいいます。補欠選挙が議員の不足を補うものであるのに対して、再選挙は当選人の不足を補うために行うものです。

立候補者の不足、法定得票数の不足、当選人が公職の身分を取得するまでの間に死亡するとか被選挙権を喪失した場合等が再選挙の事由となります。

東西南北

協会のホームページに 啓発資料・資材写真館 新設！

都道府県・指定都市、市区町村選管からご提供いただいた選挙啓発用の資料、資材又は街頭啓発の風景を写真とともにご紹介し、明推協委員・選管職員の方々の啓発活動の際のご参考にしていただくために設置しました。

この写真館は、当協会のホームページ内に設置しており、制作した団体ごとに、また、常時啓発用か選挙時啓発用か、さらに各資料・資材が一一項目に分かれており、閲覧者が見たい資料・資材を項目ごとを選択して検索ができます。写真館の内容を充実させるため、啓発資料や資材は随時受け付けていますので、ぜひ、ご提供ください。

今回は、特にユニークな資料・資材をご紹介します。



② 回覧板

(横浜市・区選挙管理委員会・横浜市・区
明るい選挙推進協議会)

A4判の大きさで一〇五、五〇〇部作成し、自治会町内会で啓発チラシをはさみこんで回覧



① 「投票したくなる飴」の袋

(北海道登別市選挙管理委員会・北海道登別市明るい選挙推進協議会)
チャック付ポリ袋(二四cm×一〇cm)は毎年作成しており、市販の飴を入れて、各種研修会・総会等で配布しています。



③ 明るい選挙啓発ポスターカード集

しています。選挙後も通常回覧板として使用しています。

小・中学校へ配布しました。

④ うちわ

「うちわあおいで上げる」

(長野県選挙管理委員会・長野県明るい選挙推進協議会)

平成一三年七月二九日執行の参議院選挙用に、県産のひのきで二万枚作成し、管内市町村選管や県現地機関に送付しました。また、街頭啓発等で配布しました。



⑤ 選挙にきてきてコースター

(長野県選挙管理委員会)

平成一二年一〇月一五日執行の長野県知事選挙用に、県産のひのき間伐材で、コースターを三万枚作成し、管内市町村選管や現地機関に送付しました。また、街頭啓発や企業訪問等で配布しました。



⑥ モップ

(和歌山県
大塔村選挙管理委員会)

和歌山県議会議員選挙用として一五〇個作成し、選挙公報とともに各家庭に配布しました。



⑦ めいずんけんちん鳴子

(高知県明るい選挙推進協議会)

六〇組作成し、よさこい祭りで貸し出ししています。



⑧ 卓上フラッグ

(福岡市選挙管理委員会・福岡市明るい選挙推進協議会)



福岡市長選挙用として二〇〇〇個(一二cm×九・五cm)作成し、市施設、銀行、大学等に配布しました。

⑨ 啓発漫画

「明るい選挙白薔薇物語」

(佐賀県三田川町選挙管理委員会)

町では六〇〇〇部の広報誌を発行しています。その広報誌に掲載しました。



⑩ コースター

(沖縄県選挙管理委員会・沖縄県明るい選挙推進協議会)

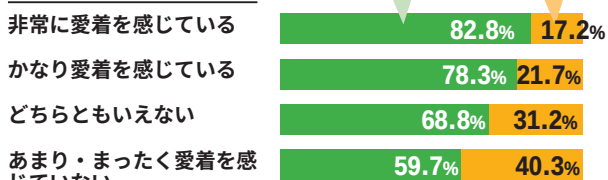
平成一〇年一二月一五日執行の沖縄県知事選挙用に作成し、居酒屋などに配布しました。



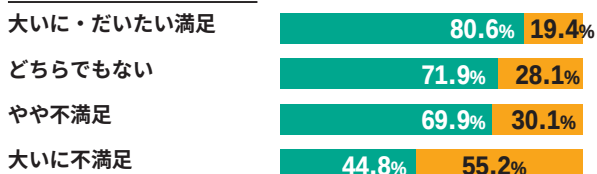
第15回統一選意識調査から

社会や政治に対する意識が、投票傾向にどのように影響を与えるのかを、地元への愛着度、生活満足度、政治満足度、投票意識、政治への関心、政党支持強度に焦点をあてて調べました。

地元愛着度



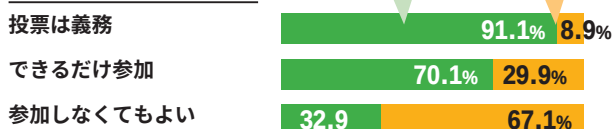
生活満足度



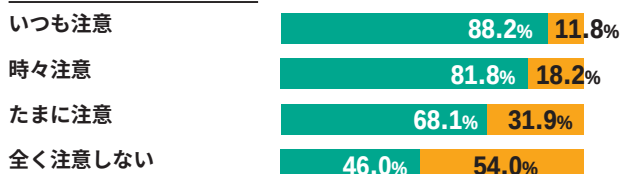
政治満足度



投票意識



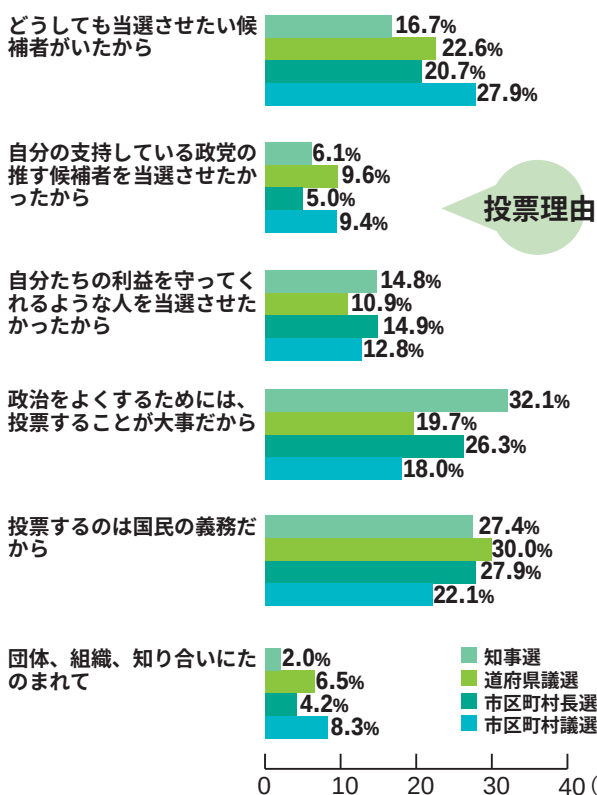
政治への関心



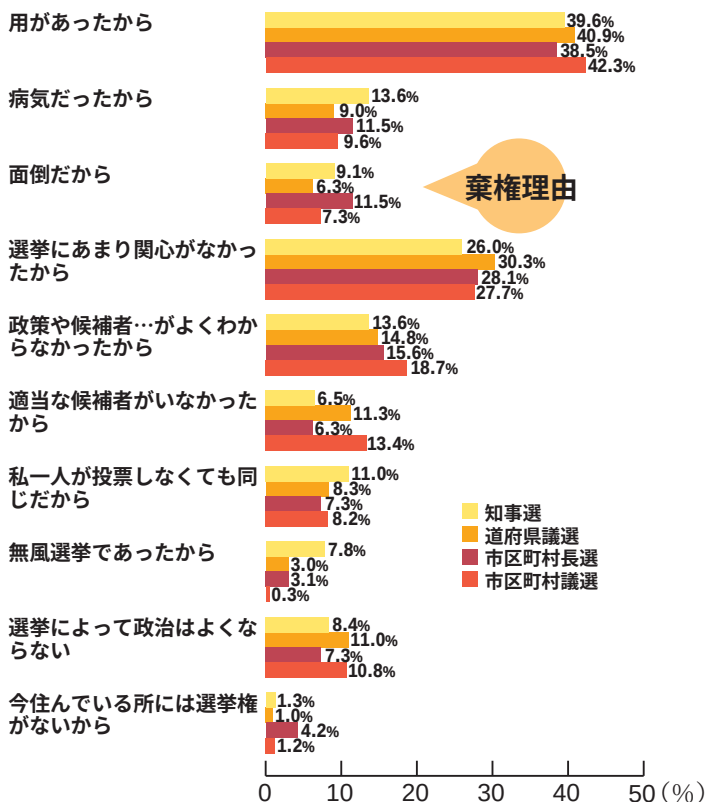
政党支持強度



知事選、道府県議選、市区町村長選、市区町村議選のそれぞれについて、「投票に行かれたのはどういう気持ちからですか」という質問をした結果です。



選挙を棄権した理由を、投票棄権者に「…選挙で投票しなかったのはなぜですか」という質問をして、10項目から当てはまるものをすべて選んでもらいました。



※第15回統一地方選挙は、平成15年4月13日都道府県・指定都市において、4月27日市区町村において行われました。

協会からのお知らせ

明るい選挙推進協会では、明るい選挙の啓発運動に役立ていただこうと、各種の啓発資料、資料を作成しています。今月号でご紹介しているもののほかに、親しみやすいアニメーションのビデオ、冊子などがあります。ご活用ください。

①パンフレット

「私たちの暮らしの中の選挙 No.5 政治資金」 (A4判・20頁)



議会制民主政治の下では、政治団体や公職の候補者の政治活動が国民の不断の監視と批判の下に行われることが求められています。そのために法律は政治資金についてルールを定めており、どのようなルールがあるかを知ることは、私たちにとって大切なことです。公正で公明な政治にとって欠かせない「政治

資金」のしくみを一緒に学びましょう。

【目次】

- 政治資金 1 政治資金の規正 2 収支の公開
3 寄附の規正 4 政治資金パーティー
5 政治団体の設立手続
政党助成 6 政党助成制度

②意識調査「第15回統一地方選挙の実態」 (平成16年3月)

明るい選挙推進協会では、第15回統一地方選挙(平成15年4月13日 都道府県・指定都市、4月27日 市区町村)における有権者の投票行動と意識を探り、今後の選挙啓発活動に資するため、全国の有権者3,000人を対象として、面接調査の方法により調査しました。東京大学教授 蒲島郁夫氏、国際基督教大学助教授 石生義人氏にご協力をいただきました(回収結果は、74.1%でした)。

もくじ

新しい波..... 2

若者は政治をどう見ているのか?

香川大学法学部助教授・香川県
明るい選挙推進協議会委員
堤 英敬 さん

特集

二〇歳になったら、 投票に行きます.....4

小学生への取り組み 4 わくわく村の村長選挙(高知県大野見村)

中学生に対する啓発 6 選挙啓発学習(香川県庵治町)

高校生が街頭啓発活動に参加10 3,000個の手書きメッセージに 投票率向上の願いをこめて(秋田市)

選挙の話 参議院選挙14

東西南北16

データ 第15回統一選意識調査から18

協会からのお知らせ..... 19

編集・発行 ● 財団法人 明るい選挙推進協会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目1番1号
商船三井ビル6F
☎ 03(3560)6266・6267
FAX 03(3560)6268
<http://www.akaruisenkyo.or.jp/>
akaruisenkyo@mua.biglobe.ne.jp

編集協力 ● 株式会社 ギョウセイ

①読者の皆さんからのお便りをお待ちしております。
本誌へのご意見、ご要望、質問等お寄せください。
お便りには、住所、電話番号、氏名、年齢等をご記入のうえお送りください。

②「明るい参議院議員通常選挙推進全国大会」を6月4日に東京都千代田区ルポール麹町で13時から開催します。

③次号(6・7月合併号)は「参院選特集号」の予定です。



選挙のめいすいくんが紹介する、各地の選挙啓発キャラクター 大阪市

大阪市の明るい選挙マスコット

センキョン



- センキョンは、大阪市選挙管理委員会のマスコットです。
- センキョンは、御堂筋のイチョウ並木から生まれたかわいい妖精。
- 鉛筆型のトンガリ帽子をかぶり、大阪のまちを飛びまわって、“明るい選挙”と“投票総参加”を呼びかけています。

表紙の紹介

非常に優れた画面の構成です。三人の人物が画面からはみ出すほどに描かれ、柔らかい立体感がでるように、陰影を意識した彩色がされた作品です。多くの作品のなかに並べてみると、その明るい人物の表情がとても個性的で、魅力を感じさせてくれる作品に仕上がっています。

(審査評)

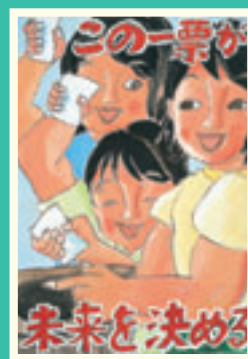
文部科学省初等中等教育局教科書調査官

田中康二郎

(選挙 平成一五年二月号より転載)

文部科学大臣・総務大臣賞作品

明るい選挙啓発ポスター
平成15年度



玉置 あかねさん
長野県飯田市立三穂小学校5年